



<http://uzik.jp/blog/east.shtml>

Interview with Paul So - Founder of Hamiltonian Artist and Gallery

毎日新しい知識を得られ、生涯勉強といふ心構えを全う出来たらどんなに豊かな人生なのだろうと思います。

最近、一度社会に出た人が自分の為に学校に戻ったり、独学で新しい教養を身につける事を良く耳にします。

"You are never too old to learn."- 歳をとっても学習できる、といふフレーズがあります。

アメリカでは若い生徒達に混じって、中年もしくは初老の学生を見かける事は珍しくありません。

私は怠け者なので、こたえた姿勢の方に出会くと、尊敬と自戒の念にかられ、もっと毎日を満喫しながら生きようと思います。

今回のインタビューは

物理学教授でもあり、ワシントンDCを拠点にアーティストの活動を支援そして芸術の振興を担う Hamiltonian Art Group 創設者の Paul So氏
にお話を伺いました。

香港で生まれ、少年期をハワイで過ごし、大学時代をロスアンジェルス、大学院時代をアメリカ東海岸
メリーランド、そして現在はワシントンDCと人生の節目にかなり大きな移動を経験している。

現在、ワシントンDCにあるGeorge Mason University

物理学教授として教鞭を取る傍ら、

三年前に自身で立ち上げたプロジェクト、非営利団体 Hamiltonian Artist

そして、去年の十月に私が彫刻の個展をさせていただいた Hamiltonian Gallery
のオーナーとして活躍している。

Hamiltonian Artsist

といふのは厳選なる審査の結果選ばれた若手アーティストの活動を

二年間のスパンで支援そして育成するプログラム Hamiltonian Artist Fellowship

を運営する非営利団体である。毎年 ワシントン DC

エリアで活動するミュージアムキュレーター、

ギャラリーオーナー、コレクター
、芸術批評家などで構成される審査員が推薦する若手アーティスト
2020年は十人、そして2021年は五人に奨学金
年間200万円を与え、毎月ゲストのアーティストを迎え、**Hamiltonian Gallery**にて個展やグループ展をする仕組みになっている。
作品をただ発表し販売するだけでなく、各個展後、著名な批評家やコレクターなどを招き、パネルディスカッションや アドバイスなど、
アーティストとしての進路や方向性までも築く支援をしている。
特別なプロジェクトで費用が必要な場合、寄付金を募りアーティストの夢を実現化させる手伝いまでしてくれるのである。ポールいわく **Artist Incubator**
?芸術家培養器 と呼べるものだ。

私が去年の十月に招待され、若手アーティスト二人と三人展を **Hamiltonian Gallery** にて開催した後、私も批評に参加させてもらいました。

物理と数学を専攻し博士号まで習得し、何故
芸術に関心があるのか訪ねてみたところ、
大学時代に絵画にのめり込んで美術の世界に興味を強く感じたからだそうだ。
しかし、普通なら
大学時代に美術を少しかじったからといって、本格的な芸術家育成支援団体や
ハイエンドなアートギャラリーまでスタートさせる人はあまりいない。
積極的に好きな作家の作品を集める
コレクターになったり、せいぜい美術館の会員になり毎年寄付をしたり位が一般的な姿勢である。

ポールの一家は代々、博愛主義者の家系で、文化的、人道的な活動に対して積極的に支援してきた歴史がある。
絵画にのめり込んだ自分の経験を活かし、芸術関係の支援をしたいと思い、
安息年に構想を練り上げ、ダントン ワシントンDCにギャラリー
スペースとなる物件を購入する。
ただギャラリーを開けるだけでなく、大幅な増改築を敢行し
一階の展示スペースの他に作品保管倉庫を地下に、
そして二階建てのロフトスペースを上階にもつけた。
建設プロセスは下記のブログにて ギャラリー運営資金は
ロフトスペースの賃貸で賄い、作品販売だけに頼らず、安定した運営を確保する。
。実に良く行き届いたプランであり、
アーティストにしてみれば至れり尽くせりの待遇である。 数年中には**Live / Work** スペースも確保し、未来の **Hamiltonian Artist**達に住居と仕事場まで提供しようというプランもある。

ポールは根っからの勉強家で教育者なのだと感心させられました。

私は美大で講師を努めていますが、一番困るのがあまりにも世間知らずで世の中を甘く見ている生徒に出くわした時である。学校卒業後、スタジオを構え、個展を毎年開いて、作品の販売で生活する、なんていゝのは夢物語に等しい。確かに、なかにはトントン拍子で成功し美術界で星を掴む人もいます。しかし現実はその簡単には行きません。その行程で挫折し、あきらめ、己の美学の追求を辞めてしまゝのが殆どです。

Hamiltonian Artist

の目標はその過酷な道のりを二年間といゝ期間でどれだけ飛躍させられるかにある。それだからこそ、選ばれたアーティスト達を様々な角度から支援そして教育する設定になっているのである。

この不景気のなか芸術作品の売買が冷えきってしまった事に対してポールはギャラリーとしては苦しいが芸術界の為にはポジティブな事だといゝ。ここ数年アート界はコマーシャルな方向に進み過ぎ、本来求められている斬新さ、オリジナリティーやインスピレーションに乏しい。コマーシャルな方向を修正するには物が売れなくなる事が一番効果的である。芸術作品としてクオオリティーの低い作品や中途半端な姿勢で芸術に取り組む作家が淘汰され、マーケットが一度リセットされる。ひたむきに作品を作り続け、諦めずに芸術を追求した者だけが残る。数年後、景気とアートマーケットが復調した時、

Hamiltonianの抱えるアーティスト達を万全の状態でのその波に乗せる事を狙ゝ、と語ってくれました。

これだけ入念なプランの元 運営されている芸術家支援ゝ育成団体といゝのは私も聞いた事ありません。至れり尽くせりの支援体制、選ばれたアーティスト達が羨ましく思えます。今はまだワシントンDC近郊のアーティストしか審査の対象にしていゝませんが、これからは海外の作家達を招待し、新しい作品を発掘し続けたいと言ゝ。現在、香港と北京にあるアートギャラリーと提携し、アーティスト達の交流を進めているそゝだ。

日本の若手アーティスト達も積極的に応募して欲しいそゝです。ただし、今はビザ サポートは出来ないの自分でビザを取得してなら受け入れられるとの事。

そこで、私の個人的な意見ですが、ビザ取得の為にワシントンDCにある語学学校に入校し、 **Hamiltonian**

でアート制作、そして夜は日本食レストランでバイト、といった熱く、ハングリーな姿勢で芸術に取り組む日本人アーティストの出現を待ち望みます。

Nao

